

# The Trumpet

## クイックスタート

このマニュアルでは The Trumpet の演奏方法を簡単にご説明いたします。これによつて大体の印象を掴んでいただければと思います。

ただ、この楽器には色々な簡単には説明できない機能がありますので main Manual を通読していただくことをお勧めします。ただ試しながら機能を模索されるより、メインのマニュアルを読んで頂くことによつて楽器の機能を最大限に利用する事が可能になります。

## システムの必要条件

**コンピューター** : The Trumpet は先例のない現実感と表現の豊かさをお届けします。しかしながらこれは CPU ロードに負担をかけるので、最新の low latency audio card を持つ PC、Mac または Power Mac, Midi または USB インターフェイス、そして該当するドライバーのバアツファサイズは 2 5 6 から 5 1 2 を使用される事を強くお勧めいたします。

**キーボード** : リアルタイムで演奏する為には、ピッチウィールとモデュレーションウィール、CC 11 を操作するエクスプレッションペダル(またはブレスコントロール)のある最低5オクターヴのC 1 からC 6 まで演奏可能なM i d i キーボードが必要になります。また、この楽器の機能を最大限に利用する為にはCC 1 9 からCC 2 3 とCC 2 5 からCC 2 7 を操作する複数のフィジカル・Midi-コントローラーを使用されることをお勧めします。

**シーケンサー** : リアルタイムで演奏されない場合はシーケンサーを使うことによつて上記のM i d i コントローラーを使用しなくても楽器の表現力をフルにコントロールする事が可能です。The Trumpet は Cubase, Ableton Live, Digital Performer と Logic などを含む代表的なシーケンサーで十分なテストをしてあります。

## M i d i コントローラーとその機能

**CC11**                      演奏中の音の p p p から f f f までの強弱をコントロールします。

**重要事項** : CC 1 1 の値を受信できない場合、楽器は正しく演奏できません。

**ヴェロシティ**              単音(レガートでない=連結しない音)の場合、  
ヴェロシティはアタックの強弱をコントロールします。  
レガート(オーヴァーラップする音)の場合は移り変わりの長さ(時間)をコントロールします。  
普通のレガートの場合、7 0 から9 0 をお勧めします。

ヴェロシティを極端に下げることによって「ハーフ・ヴァルヴ」グリッサンドまたはポルタメントを得られます。

CC 1 1 とヴェロシティは一番重要なパラメーターです。この二つを上手に扱う事がリアルな演奏の基本となります。その他のパラメーターは：

Pitch Bend	いくつかのリアルな効果を含むピッチ・ベンディング(+/- 2 半音)
Modwheel (CC1)	ヴィブラートの強度
CC19	ヴィブラートの速度
CC20	アタック・ピッチ・モジュレーションの強度
CC21	継続するフラッターの強度(スペシャル効果とダーティー・サウンドのみ)
CC22	継続しないフラッターの強度
CC23	frullato (flutter tongue) の強度
CC25	ヴェロシティにリンクされた音の強弱 (詳しくはメインのマニュアルをご覧ください)
CC26	アタック・ピッチ・モジュレーション(と note-on キースウィッチ)の長さ
CC27	デフォート・リリース(と note-off キースウィッチ)の長さ

CC 1 9 から 2 7 のコントローラーはメニューの「Controllers」を選ぶことによって、楽器の GUI で見ることが出来ます。

## ミュート

メイン・メニューの「Mutes」を選ぶと最も一般的なミュート(ミュートは **B** トランペットのみに使用可能)を選ぶことの出来るメニューが掲示されます。

## パフォーマンス・キースウィッチ

これはエクスプレッションペダルやピッチウィールとモジュレーションウィールのマニュアル操作では演奏が難しい複雑なアーティキュレーションを可能にするパワフルな機能です。4種類のキースウィッチがあります。(キースウィッチは以下KSと省略して表示してあります。):

- 「note-on」KSは次に演奏される単音の調節をします。(KSは前もって押しておく必要があります。)
- 「on-the-fly」KSは演奏中の音に特定の効果を加える事によって調整をします。
- 「on-release」KSは note-off(音を開放する)の時にリリースの調整をします。
- 「non modulating」(NM) KSは特殊なアーティキュレーションやフレーズ(例えば wah-wah, falls など)に使用します。

キースウィッチ	タイプ	
C1	note-on	スフォルツァート
C#1	note-on	急速なクレッシェンド(レガートの音にも作用します)
D1	note-on	上昇するピッチ・ベンド
D#1	on-the fly	急速なデクレッシェンド
E1	on-the fly	下降するピッチ・ベンド
F1	on-the fly	ヴィブラートで音を終了する(長め)
F#1	on-the fly	ヴィブラートで音を終了する(短め)
G1	release	モデュレート・リリース
G#1	release	とても短いリリース
A1	release	ヴィブラートのようリリース
A#1	NM, note-on	ワーワー(CC 1 1 でコントロール)
B1	NM, on-the-fly	下降
C2	NM, note-on	スプリット・ポルタメント
C#2	NM, note-on	レガートの元のアタックを保持する
D2	NM, note-on	セミ・レガート・モード
D#2, G#5	-	サイレント・キー

**重要事項**：ある効果、またはモデュレーションの強度はキースウィッチのヴェロシティによりります。

分離(スプリット)されたポルタメントと falls の各種はC 2 と C 1 - F 1 を(スプリット・ポルタメント)を同時に、またはC 2 をG 1 - A # 1 (falls) を同時に押す事によって得られます。